

第1、 近況、雑感

1. そんな国はイランとばかりに、他国に戦いを仕掛ける権利は当然トランプにはない。自国はロシアと並んで5000発以上の核弾頭を持って、他国にはそれを持たせないとする権利はどこから導かれるのか。
2. どんな思想信条の国であろうと、国土は地球からの借り物にすぎないのだから、傷つけることは断じて許せない。この小学生でも分かる理屈を大国のお偉いさんは分からないのか。100億人にも増える人間が、益々住みづらくなる戦争をどんな理屈があっても許してはならないのだ。
3. ウクライナ戦争も続き、滅亡しかけているロシア人がこれほど残忍な民族とは。すでに昭和20年の敗戦のせめ込み方を人間とはいかに信じがたい存在かを知らされた。続くトランプの言行不一致は誰もが認めるところで、プーチンに借りがあるのか、この長びく戦争でウクライナ人は益々ウクライナは主権国家であるとの認識を強くするばかりで、戦いは続き地球は深く傷み続ける。
4. 真っ赤な嘘が散見される高市の昨11月の台湾有事発言は、撤回されないまま日中関係のいらだちはいまだ尾を引いていて、中国の正月にあたる春節に来日予定を外された中国人が多くて受け入れ側の経営にもかなり被害が出たと聞かす、中国からの渡航制限であるの外れた不動産業者もいるのではないか。政府は外国人による土地取得に関する規制の強化策を検討し始めたが遅きに失する。すでに使用を廃した水利権を農業法人に移転して、水を欲しがると中国企業に売却仲介している不動産業者のがれの業者もニセコ界隈にいるようなので監視が必要である。
5. 新年早々の受贈本から2冊を紹介。その一冊、「細谷源二の百句」五十嵐秀彦さんの100句の解説が細谷源二俳句論になっていて、久しぶりに高校生で生意気に細谷源二に会って自論を展開した70年前が懐かしい。細谷源二、明治42年生、新興俳句弾圧事件で昭和16年逮捕、投獄2年半、戦後食を求めて帯広の開拓農家を体験、後に砂川の東洋高压で旋盤工の職を得て、俳誌「氷原帯」主宰。昭和27年、寺山修司と出会ったころの全国高校生俳句コンクールの選者の一人。受贈のきっかけは、同書の刊行を知ったので、かつて古川克己に、「会ったことのある俳人論を書け」と言われて、厚い本の一部にのせて貰った極めて独断の多い細谷源二論を評価していただいた結果、戦後の現代俳句を思い返す好ましい一冊です。

100句から、有名な一句

地の涯に倅せありと来しが雪 細谷源二

6. もう一冊、「町に戦場あり」1960年代“アサヒクラブ”に森山大道、中平卓馬が載せた傑作フォト40枚に寺山修司が20代でメモのような文章をのせていて楽しい文庫版オリジナル出版 2025.12.10(ちくま文芸文庫)だが、当財団法人寺山修司資料館の評議員 堀江秀史先生が30頁にわたる解説で没後40年を経ての寺山修司論を展開してくれたこの収穫は寺山修司の全ファンの目にふれてほしいものだ。

<上野は俺らの心の駅だ> (後に「家出の事情」に変更)

近頃また、上野駅へ行くことが多くなった。私の論文「家出のすすめ」を読んで上京した家出少年少女たちが私に身上相談の電話をかけてくるからである。だが、私は彼らに「すぐ帰りなさい」ということはできない。

風呂敷包みと啄木歌集、それに一本のコーモリ傘を持った彼等は、十年前のある日の、私自身のポートレートでもあるのである。

(同書から引用)

第2、 この冬の健康診断

1. 89歳8ヶ月、体重57kg(-5kg)、身長158cm(-6cm)、血圧80~170、視力・聴力・歩行力 異常なし
2. 週5日間・1日8時間 自社執務、睡眠9時間・時折うたたね、昼寝30分、読書1日1冊、
3. 1日2食・野菜・くだもの・魚中心、自炊、外食禁止、毎日飲酒70年、アル中ハイマー病幹部候補生

第3、 今月の報告文

- ・「意思をもって迎える最期」 内科医 佐野海那斗
(2026.3 選択)大往生考 75 参照

第4、 今月の再読本

- ・「アメリカの毒を食らう人たち」
(ロレッタ・シュワルツ＝ノーベル、2008.5.1、東洋経済新報社 1,900円)
- ・「医療の巨大転換を加速する糖質制限食と湿潤療法のインパクト」
(江部康二・夏井睦、2013.9.5、東洋経済新報社 1,500円)
- ・「不都合な真実」
(アル・ゴア、2007.1.5、ランダムハウス講談社 2,800円)
- ・「ヘルスケア産業のデジタル経営革命」
(ジェフ・エルトン、アン・オリオーダ、2017.10.23、日経BP 2,000円)
- ・「ミネラルウォーター・ショック」
(エリザベス・ロイト、2010.6.20、河出書房新社 1,600円)

第5、 今月のことば

- 怒るときに怒らなければ、人間の甲斐がありません。(太宰治)
- 環境破壊の結果、人類全体が苦しんでいる。そして、まだ生まれぬ未来の世代は、われわれが今、犯している過ちの代償を負うことになる。(米国カトリック司教協議会)
- 約束を守る最上の手段は、決して約束しないことである。(ナポレオン)

2026年2月28日

サンケン環境株式会社
代表 山形 健次郎
(携帯:080-5538-2918)